

認定NPO法人フローレンス インターンシップ

1. 活動時期 2025年7月10日～7月12日

高校1年 川谷 悠仁

2. 活動の概要

子ども、子育ての福祉支援を全国で展開する認定NPO法人のフローレンスが行なっている事業の見学(障害児保育園ヘレン)や保育園での実際のボランティア(おうち保育園)、フローレンスの本社にて「医療的ケア児のインクルーシブ保育」をテーマにした政策提言をフローレンスの事業を体験してみた上でグループで考えて、発表するなどをしました。活動前には参加者でフローレンスが行なっている事業の具体的なものを調べたり、それを参加者と共有してより良いさ政策提言をどうすればできるかを推考しました。

3. 感想

この活動で僕が最も印象に残ったのは、1歳児から5歳児までのみんなの笑顔です。障害児保育園ヘレンは生まれつき何らかの障害、たとえば1人で歩行ができない子や常に横になって人工呼吸器をつけて、生活をしないといけない子どもたち、またその子どもの家族を支援する場所です。そこに行く前は健常な子と違って、辛い生活を強いられているのかと思っていました。しかし実際にやってみると、そんなことを全くありませんでした。障害の度合いが大きい子も小さい子もいましたが、水遊びや歌に合わせてダンスをしてみるなど、興味深く楽しい活動がそこにはありました。それは看護師、栄養士、保育士などいろんな職種の人の協力があってのものでした。どの子も笑顔でいて、本当に僕まで感動しました。

ヘレンの園長さんのお話もまた印象に強く残っています。医療的ケア児を受け入れている保育園は東京でも限られた地域にしかなく、医療的ケア児をもつ家庭は必死で東京に引っ越していると、また受け入れられる数も現状大変少なく、全員の入園を許可することができるのが大きな課題点だとおっしゃっていました。また、待機児童問題を解決するためにフローレンスが作ったおうち保育園でも、たくさんの子どもの笑顔をみることができました。自分もこうして保育園で育てられて成長してきたんだなと、しみじみ思いました。

また医療的ケア児のインクルーシブ保育(医ケア児と健常な子が同じ保育園にいる)の拡大を図るための政策提言を考える、という活動も大変学びになりました。実際に政府に政策提言を行い法律を作ったフローレンスの人に、どうすれば自分たちが持っている問題をアピールできるかなどさまざまなことを学びました。政策提言を作る工程は、実際にフローレンスが政府に政策提言を行ったときと全く同じ方法でやりました。この活動を通して、誰でも新しい世の中を作ることができると実感しました。

